男子のおしっこを女子が補助する「おしっこ係」がある学校

中学一年の時の話。

僕たちの小さな田舎の学校には、よそではありえない習慣があった。「おしっこ係」。クラスの女の子が日替わりで担当し、男子がトイレに行くときに付き添って「お手伝い」をする。女子が男子のズボンとパンツを下ろし、おちんちんを

握って、おしっこをコントロールし、終わったらパンツとズボンを上げてくれる。変なルールだったけど、当時の僕たちにはそれが普通の日常だった。

彩花はクラスの優等生。彼女がおしっこ係の日のこと。僕が「おしっこ行くよ」と言うと、彼女は教科書を静かに閉じ、「うん、わかった」と小さく頷いた。男子トイレに入ると、彼女は少し緊張した顔で僕の前にしゃがんだ。「じゃあ…下ろす

ね」と呟き、ズボンのベルトを慎重に外し、ゆっくり引き下ろした。続いてパンツをそっと下ろすと、ひんやりした空気がおちんちんに触れ、縮こまったそれが彩花の目の前に現れた。彼女は一瞬目をそらし、「う…」と小さく息を漏らしたが、すぐに真剣な表情。「こうするんだよね…」と呟き、そっと皮を剥いてくれた。彼女の指は細く、冷たく、かすかに震えていた。ジョロジョロとおしっこが出始めると、尿道を液体

がシューッと流れる感触が温かく、くすぐったかった。